

科学技術政策担当大臣等政務三役と総合科学技術会議有識者議員との会合 議事概要

日 時 平成 23 年 10 月 13 日 (木) 10:46 ~ 11:26

場 所 合同庁舎 4 号館第 3 会議室

出席者 大串政務官、相澤議員、本庶議員、奥村議員、今榮議員、白石議員、青木議員、
中鉢議員、大西議員、泉統括官、梶田審議官、吉川審議官、大石審議官

議事概要

大西議員就任挨拶

相澤議員 会を始めるに当たりまして、今回、大西議員がご就任になりましたので、この会合としては初めてでもございますので、一言御挨拶をいただければと思います。

大西議員 10 月 3 日に私ども日本学術会議で、会員の交代と会長の選出が行われまして、新たに会長に選出されました大西といたします。どうぞよろしくお願い申し上げます。

前廣渡会長もこちらの議員を務めさせていただいたということでもありますので、私がかわってこちらの議員に就任させていただきました。

大分前に、総合科学技術会議のいろいろな分科会といたしますが、一つの会合に参加したことがございますけれども、しばらく縁がなかったものですから、全く事情がわからないのでご指導賜りたいと思います。

この中には I T S のタスクフォースで奥村議員に大変お世話になっておりましたし、それから復興構想会議で中鉢議員のいろいろなご指導賜ってまいりましたので、そういう知り合いがいるということは心強く思っておりますが、ほかの議員の皆さんにもいろいろ教えていただきながら務めていきたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

議題 1 . 平成 24 年度科学技術関係予算概算要求について

相澤議員 本日の議題は、平成 24 年度科学技術関係予算概算要求についてであります。概算要求の締め切りがまいりました。それでその結果がまとめられている段階でございます。本日はその全体像をまずご報告し、それについての質疑をさせていただきたいと思っております。

それではまず全体像について、これは鈴木参事官から説明願います。

<鈴木参事官説明>

大串政務官 質問といたしますか、意見というか感想に近いものでありますけれども、先般来、各府

省からのヒアリングに私も、全部ではございませんでしたが同席させていただいて、各議員の先生から各府省の内容に関して、かなり御質問もいただきました。鋭い指摘だなと思いながら私も聞かせていただいておりますが、やはり第4期計画、そしてそれを踏まえたアクションプラン、こういったものを踏まえて、全体の科学技術政策及び予算が集約化され、フォーカスの効いたものになっていくということを目指しているわけでございますけれども、各省の予算要求内容等を見ていると、各省なりのところがかなりあるというのが感想です。

ですからやはり私たち、総合科学技術会議において力を発揮して、この間、かなり鋭い指摘をしていただいたような方向性をこの数か月やっていくことによって、やはりフォーカスを効かせていくという役割は非常に私たちに寄せられていることだと思いましたが、感想でありますし、またぜひよろしく願いできればと思う次第でございます。

それから大西議員、今回から、ぜひよろしく願い申し上げます。

奥村議員 これはお願いですけれども、今の政務官のご発言とも関係するかもしれないのですけれども、要するにこういう府省別でまとめますと大体あまり変わらないというのが毎年の答えですが、ただし、重要なことは、やはり府省の内部の大きく減ったところと増えたところというのがあれば、それを見せていただきたい。

例えばアメリカの、2012年のオバマ政権のR&Dの予算がもう既に提出されていますけれども、例えばDOEであっても、どこの部分を増やして、どこの部分を減らしてというメリハリを効かせて予算編成をしているわけで、我々の今回の話でも、環境省の増対応は比較的わかりやすいと思うのですけれども、例えば文部科学省が、どこの部分を減らして、どこの部分を増やしたのかという、もう少し大きく括りつつ見やすい姿で予算編成の組み方というのを出さないと、府省単位だけで示すと動きが全く見えない。

そういう変化を、できたら検討して見せていただくと大変ありがたい。

相澤議員 これは各省からの全体ヒアリングで指摘したところでもあるわけですが、どこに各省の重点がかかったか。その結果、どこが削減され、どこが増額として要求されたのかという、この姿をぜひ見せていただきたいということをお願いしていました。

今のような点を、鈴木参事官、現在のような収集プロセスで、そこまで明確にできるかどうかなのですが、いかがでしょうか。

鈴木参事官 今、何ができるのかという観点から申し上げますと、概算要求の結果にはなりますけれども、増減の数字は明らかになっておりますので、そういうところから事後的ではありませんけれども、概算要求の方針がどうであったのかというのをデータとして浮かび上がらせるということではできないのかと思います。

相澤議員 ぜひそういうようなことを、これから少し検討していただいて、整理していただければと思います。

それではこの全体像をもとに、アクションプラン及び重点施策パッケージというものの位置づけを明確にしつつ、今後のプロセスとしては重点施策パッケージというものが特定されていく段階に入ります。

そこで、次にアクションプランと重点施策パッケージの状況がどうかということについての報告をお願いいたします。

< 鈴木参事官、大路参事官説明 >

相澤議員　あと重点施策パッケージのところは、ここに書いてあるようところで、現在の状況は、まだ総括できていないというところですか。

鈴木参事官　状況だけ御報告しますと、パッケージにつきましては、提案の締め切りを行いまして、合計 14 パッケージ。提案ベースで額的に、総額 1,300 億円弱と、内数でカウントできないものもございませけれども、大体そのぐらいの規模感でございます。

相澤議員　それでは、アクションプラン及び施策パッケージの状況が額としてもイメージができる段階になりました。それを先ほどの科学技術関係予算全体の中の位置づけを明確にしつつ、これから進めることとなります。

ご質問及びご意見ございましたらお願いいたします。

中鉢議員　昨年導入したアクションプランにつきましては、何度もこの会で確認させていただいたかと思いますが、「アクションプラン」がバジェットリープロセスのことを言うのか、つくられたプランそのもののテーマのことを言うのかというところが、私自身の理解の足りなさもあるのかもしれませんが、いま一つ明確でないまま進んでいる感じがいたします。

一つだけ確認したいのは、昨年からアクションプランを政策誘導のツールとして概算要求前に示すということがなされていますが、もう一つ大事なこととして、府省連携で無駄を省くということがあったと思います。ですが、先日の平成 24 年度の科学技術関係予算に関するヒアリングでは府省連携のあり方、あるいは他省の動きについての説明を求めても、何らの説明がありませんでした。方針を転換し、このことの徹底を今回はやらないということなのかどうか、この確認をさせていただきたいのですが。

相澤議員　これは私のほうからお答えしますが、アクションプランの中で、それぞれのアクションプランに対して提案された施策については、十分、各省連携が議論され、必要であれば、関係省をその場に集めて、連携をどうするのか、これから検討するのかとか、そういうことをすべて検討してあります。

したがって、最終的には提案の形は各省から出てくるものですから、その提案そのものの中に具体的に書いてあるところと、それからこちらからこういうところについて連携すべしということアクションプランの総括のところにコメントしてあるようなことで、全体としては十分、各省連携は果たされていると考えております。

中鉢議員　そうであればいいのですが、先日のヒアリングでは、例えば、洋上風力については複数の省から報告がありました。ですが、各省間の役割分担については、明快な説明はなかったように思いました。文言は異なっておりましたが、非常に似たような施策という印象でしたので、中身についてもっと精査しなければいけないのではないかとこのことを感じましたので。

相澤議員　これは、具体的には今の洋上風力ですが、これはまさしく、今回のアクションプラン策定のところで非常に重要なパートでありました。そこで3省が何をやるのかということもきちっと整理したところでもあります。ただ、この前の全体ヒアリングのところでは、お答えになられた方が、そこまでを十分に把握されていなかったのではないかと思います。

中鉢議員　さきほどの話と関連した質問させていただきます。

先ほど奥村議員がメリハリの問題をお話しされましたが、それは前回のヒアリングのときもどこを増やしたかということもきちっと国民に知らせるべきであろうと指摘しました。重点化した領域ですね。しかし、このことのご説明が明確ではなく、議論がなかなかみ合わなかったということがございました。それはそれとして、こういうように科学技術全体の予算を速報値として見せていただきますと、第4期は、政府研究開発投資をGDP比1%を目指す計画でしたが、初年度となる23年度においても2年目となる24年度においても未達ですね。

大型のプロジェクトというのが出てきていません。前年比で見ますと、今回の東日本大震災の復旧・復興対策に関する経費を除きますと、やはりほとんどメリハリのない予算編成になっているような印象を受けます。新成長戦略というものが民主党政権になって出されて、雇用であるとか、観光であるとか、健康であるとか、金融であるとか、科学・人材育成であるとか、アジアと協調であるとか、科学技術情報通信といったことに結びつく政策を各省庁で打っていると思いますが、そこをもう少しアウトリーチ活動をして、国民に政策と新成長戦略がつながっているということを示さないと、科学予算は何となく暫減しているのではないかという印象を持ってしまいます。日本のこういう姿勢に比べて、中国の温家宝さんのメッセージであるとか、オバマさんのメッセージであるとか、韓国のメッセージを見ますと、いささか日本の成長のための科学技術のトーンが下がっているように感じます。こういう状況に対して、各省庁がどのように考えているのか、どの省が何をやるべきなのか、新成長戦略に結びつけていくのかという議論はあるとは思いますが、その説明をきちっとやらないと、何か科学のための科学の予算で、ここだけで閉じてしまう、政府が目指しているものがきちんと社会、国民に伝わらないのではないかという印象を受けます。

相澤議員　それはこの前の政務会合のときの重要な案件でもありましたので、私のほうから各省にその姿を見せていただくように強く求めたわけですが、このところがいささかまだギャップがあるようでありまして、これは今後の重要な課題だと思います。

奥村議員　メリハリという言葉の意味と言いますか、今の中鉢議員のご発言にありましたように、日本の科学技術政策はまさに科学技術政策のための科学技術から4期計画では特にイノベーション創出ということまで大きく踏み出したはずで、これにふさわしいやり方、仕組みをつくっていかないと、今のままの各府省の、またその中の各組織単位の積み上げでいく限りにおいては、大きく変わるということはやはり難しいのではないかと思います。先ほどご紹介しましたオバマ政権の2012年の予算編成を見てみますと、恐らく政治的、政策的要請もあって、商務省傘下にある研究所は5割近く予算を増している

んですね。それからDOEのエネルギー関係はやはり5割ぐらい増やしているわけです。一方減らしているのは、国防の武器研究と約17%減の農業関連研究なわけです。そういうようにして予算からメッセージを発信しているわけです。

これはやはり大統領府で科学技術関係予算を編成している、という、トップダウン的な仕組みの一つの効果ではないかと思います。我々のところは、それとは全く違う仕組みになっているので、積み上げをやっても、おのずと限界があるのかなと。今の我々にとって重要なのは、科技関連予算の組み立てのどこに着地点を求めるのかということを引きちと共通認識を持てるようなことを急がないといけないのではないかと思います。

相澤議員 ただいまの点は、先ほどの中鉢議員の各省連携の話と密接に関連していると思いますね。今、アクションプランは、政策課題を掲げて、その政策課題を達成することについて各省はどういう提案があるのかという問いかけをやっているわけで、もう一つ、その一段上のところを各省の予算枠とか何かをむしろ飛び越えて、全体構想としてどうやるかということをもっと明確にして、各省がそこで連携していくという、こういう大きなスコープをとらないと今の問題を解決するには、なかなか難しいということだと思います。これは次へのまた重要な検討課題ということではないかと思います。

白石議員 今回のことについて、今、政務官がおられるのであえて申しますと、この前の政権のときには、半年間、本会議はなかったわけですね。現政権になってもまだ一度も本会議がないわけですね。例えば小泉政権の時代だと、月に1回やっていますよね。ですから、それがやはり一番重要なメッセージだと私は思います。これを半年に1回では、幾らここで何をやったって、私は国民へのメッセージにはならないと思います。

相澤議員 これは大変重要なポイントでありまして、ぜひ本会議の場で、今のような国としてどこを向くべきなのかということを確認にして、そのための予算だということを繰り返しやらなければ、我々が今やろうとしていることは徹底できないわけでありまして、ぜひ政務官にもよろしくお願ひしたいと思います。

それでは、このような状況で、アクションプラン及び施策パッケージのところも出てまいりましたので、これからプロセスとしては、重点施策パッケージの特定の検討に入ります。各議員におかれましては、大変お忙しい中ではございますが、この特定プロセスのところにご協力をお願い申し上げます。

それではただいまの案件に絡んで、現在、総合科学技術会議の評価専門調査会でPDCAをきちと回すということの前提になる評価のプロセスをどうするかということで、今日はそこまでは出てこないんですね。検討しているところなのですが、その一環として、大規模で長期間の施策については事前評価をするということが出てきております。

それでこれは今までも行っているわけですが、今回の概算要求の今の状況から、この事前評価が必要なものはどういう案件かということを検討しているところでございますので、その状況を川本参事官から説明お願いします。

<川本参事官説明>

相澤議員 これまでの条件を検討し、ただいまの4件を事前評価の検討対象とするということで、既に検討を開始したというところでございます。これにつきましてのご質問はございますか。

中鉢議員 光エレクトロニクスの実装と、それから石炭をガス化してCO₂等を回収する研究開発ですが、実施期間が長期にわたる計画になっていますが、長期にわたる計画になっている理由は何でしょうか。

相澤議員 この内容については、これから事前評価を、そういうことを含めて全部事前評価をすると。

中鉢議員 事前の事前の説明ということですか。

相澤議員 そうです。この4件が事前評価の対象であるという、今、段階であります。

川本参事官 先生がおっしゃった点も、評価の中で確認していく必要があると思っております。

ちなみに、一応事業計画というものを4ページ以降の事業概要の裏にそれぞれつけさせていただいております。現時点で、各省から挙がっている計画としてこういう形になっているということでございます。

相澤議員 それではよろしいでしょうか。ありがとうございました。

平成24年度科学技術関係予算概算要求についての案件は終了でございます。

(以上)